

Back to motorcycle life.

マイク菱木の
バイクライフ
vol.2

Scene 2

浅間記念館

若き日の思い出が
蘇る場所へ。春一番の
ツーリングで訪ねる

取材・文 / 栗栖国安
写真 / 徳永 茂

ホンダの名を世界に知らしめたCB750FOURの開発に携わり、鈴鹿10時間耐久ロードレースで3連覇。その後、北米のレースでも活躍した伝説のライダー、菱木哲哉氏の足跡をたどる連載の第2回の舞台は、長野・浅間高原である。

1955(昭和30)年、日本初のバイクレースが浅間高原で開催された。一般公道(未舗装)と牧草地を組み合わせた全長約20キロのコースを舞台に、125ccから500ccクラスのマシンによって争われた。隔年で開催されたこのレースは、第2回以降は「浅間火山レース」という名称となり、一般公道を使用しない専用コースとなった。第1回、第2回とホンダは思うような結果を出せなかったが、59年の第3回大会でようやく各クラスで表彰台を獲得した。

浅間火山レースはこの3回で終了。もともとテストコースとしての

意味合いが強かったダートコースは、予想以上に高速・高性能化したバイクが走るには、ライダー、観客ともに安全を確保できなくなったのである。さらに、一般公道を暴走する、カミナリ族の増加も社会問題となっていた。そこでホンダは本格的な専用コースの建設に着手。62年、鈴鹿サーキットが完成した。

◆ 浅間火山レースが行われていた当時、菱木氏はまだ小学生から中学生。当然レースには出場していない。しかしホンダのテストライダーだった時期に、かつてのコースを遊びで走った経験を持つ。日本で初めてバイクレースが開催された浅間高原は、菱木氏にとってやはり、感慨深い場所なのである。

春の訪れとともに、愛車CB1100を駆って軽井沢までツーリングに出た菱木氏。浅間コース跡、そして鬼押し出しにある浅間記

右 / 日本の二輪レースの聖地である浅間レース場跡へ向けて、浅間山をバックに走る。ツーリング仲間でもある福田氏と2台で訪ねた下ノペンション「シルバーストーン」に宿泊した菱木氏(右)と、宿の主で往年の名レース監督・鈴木氏(中)とホンダOBの福田氏(左)



念館を訪ねるのが目的である。

高速道路網が整備された今では、軽井沢は日帰りルートだが、あえて今回はペンション『シルバーストーン』に宿泊した。ここは、ブリヂストンやイタリアのピアジオなどでエンジンアとして、カワサキUK（イギリス）でチームマネージャーとして、ロードレース世界GPを転戦したケン・スズキこと鈴木健夫さんのペンションなのである。

菱木氏はここである人物と落ち合う手はずを整えていた。ホンダSFに勤務し、ホンダOBで作るツーリングクラブのメンバーでもある福田氏だ。ロングツーリング派の福田氏はCBR1000RRで鈴鹿から300キロの道程をやってくるのである。

3人が集まれば当然、昔話に花が咲く。バイクのこと、レースのこと、それに仲間たちのことなど話題には事欠かない。バイクという共通項が男たちを饒舌にする。

翌日、菱木氏は福田氏を伴って浅間レース場跡へ向かった。別荘地を抜けた道はカーブを連続させて次第に標高を上げていく。気温は徐々に低下していき、5度を下回るほどまでになっていた。だがふたりはワインディングを気持ち良さそうに駆け抜けていく。その姿は若いころとにも変わっていない。

浅間レース場跡は一面の雪に覆われていた。日本のバイクレース発祥の地を前に、菱木氏は長い時間たらずんでいた。

雪をまとった浅間山を横目に、鬼

右/浅間コース近くの空き地でCL72のカウンター走行を楽しむ、テストライダー時代の菱木氏(写真提供/菱木哲哉)



愛車CB1100を駆って全国各地をツーリングする菱木氏。ワインディングでは華麗なコーナーワークを見せて快走。レーサー魂はいまも健在だ



押ハイウエーの長いストレートを爽快に走り、鬼押ししにある浅間記念館を訪ねた。

記念館は、この地で行われた浅間火山レースが、世界一の二輪車王国の基礎を築くとともに、モーターサイクルスポーツの発祥の地として多くの優れた人材を輩出したことを語り継ぐため、有志が集まった浅間ミーティングクラブと、地元・群馬県長野原町が協力して89(平成元)年5月に開館したものだ(浅間ミーティングクラブの紹介文より)。

館内には国内外の往年の名車が40台以上展示されているほか、日本のバイクレースシーンを牽引した名ライダーのサインや写真、グッズなどがあり、二輪文化の歴史を目のあたりにすることができる。菱木氏、福田氏の両氏にはどれも懐かしいものばかりのようで、一つひとつを眺めては、またまた昔話に花が咲く。そんななか、往年の名ライダーの直筆サインがあるヘルメットが目にとまり、菱木氏がいった。「これは僕が携わって製作した限定ヘルメットのひとつだ」

係員の許可を得て手に取る。「これほど多くの先輩ライダーのサイン入りは2つとないので大切に展示したほうがいいよ」の言葉に、係員は展示方法の変更を約束。ちなみに、ここ浅間記念館では定期的に展示するバイクを入れ替え、バイクファンを飽きさせないようになっている。浅間を訪ねた菱木氏は、満足そうにCB1000に乗り、鬼押しを後にした。

菱木 哲哉

ひしき・てつや◎1946(昭和21)年、千葉県生まれ。草創期の鈴鹿耐久レースに出場し、68年にCB450、69・70年にCB750で3連勝を飾る一方、テストドライバーとしてこれらのバイクの開発にも携わった。その後、単身アメリカに渡り「マイク菱木」として活躍。退職後は仲間とともにツーリングを中心にバイクライフを楽しむ。



浅間記念館

住所:群馬県長野原町北軽井沢
営業時間:4/1~11/30の8:30~17:00
休業日:水曜
料金:大人300円